

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
実社会対応プログラム（公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 実社会対応プログラム			
研究テーマ名		共感形成の社会基盤とソーシャル・ビジネスを活用した新産業創造 の研究			
研究代表者	所属機関	学校法人同志社 同志社大学			
	部局	経済学部			
	役職	教授	氏名	八木 匡	
委託研究費		11,260		単位：千円	
平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
2,880	3,870	3,250	1,260		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

我が国では、少子化と高齢化の進展により、社会の活力が低下していくことが懸念されており、新しい概念に基づく成熟化社会の構築が求められるようになってきている。新しい概念は、共感と信頼が醸成された社会基盤の下で、政府機能に依存するのみでなく、新たな公共性を育成し、都市機能の向上と新産業育成を促進することが必要となってきている。

共感と信頼の醸成は、単に公共性を育成するために必要なだけでなく、経済効率性にも影響を与える。そこで問題となるのが、そもそも信頼形成がどのような社会基盤と誘因構造の下で行われるかという問題である。本研究プロジェクトにおいては、共感から出発して、信頼形成を基盤とした経済社会を実社会において構築するための実装スキームを提示する。このために、震災復興をソーシャル・ビジネスによって進めている気仙沼商工会議所と連携して、ソーシャル・ビジネスの立ち上げ、実践的活動を行う。

本研究によって、信頼を醸成するための社会基盤と方法論を明確にすることができた。方法論には、文化的創造的活動による社会関係資本の形成が重要であり、かつ効果的であることが示された。特に、創造的活動において競争は信頼を基盤としたものであることが重要であり、その場合において協調的行動は効率的になる。このようなメカニズムを明確化することにより、経済の健全なる発展を図る政策を提示することができた。

実施した研究の中心は、郷土芸能劇「からくわ物語」を用いた、社会関係資本の形成による、震災復興のメカニズムであった。生業や生活の結果としての文化が、崩壊したコミュニティ復元力の源泉となりうること、新たな関係性を構築するためのツールとなりうることが明らかになった。そして、この研究成果を、2018年3月24日に、東京都目黒区民センターにおいて発表した。郷土芸能が、被災した人同士をつなぎ、被災した人と被災しなかった人をつなぎ、被災した人と支援に来た人をつなぐといった、さまざまな機能を持っていることが報告された。また、京都における文化的・創造的活動が信頼形成をどのように促進しているかについて、京都西陣地区今宮神社の織姫祭を例にとり、西陣の織物産業が、祭事を通じてどのように活性化しているかについても明らかにしている。